「アイヌ政策に関する世論調査」の概要

内閣府政府広報室

1　調　査　目　的　　アイヌ政策に関する国民の意識を把握し、今後の施策の参考とする。

2　調　査　項　目　　(1) アイヌという民族について
(2) 「民族共生象徴空間」（愛称：ウポポイ）について
(3) アイヌに関する施策について

3　関　係　省　庁　　内閣官房（アイヌ総合政策室）

4　調　査　対　象　　(1) 母 集 団　全国 18 歳以上の日本国籍を有する者
(2) 標 本 数　3,000 人
(3) 抽出方法　層化２段無作為抽出法

5　調　査　時　期　　令和２年 11 月５日～12 月 20 日

6　調　査　方　法　　郵送法

7　調査実施機関　　一般社団法人　中央調査社

8　回　収　結　果　　(1) 有効回収数(率)　1,767 人（58.9%）
(2) 調査不能数(率)　1,233 人（41.1%）

－不能内訳－

宛先不明による返送	25	未返送	1,144	白　票	5
代理回答・記入不備	43	期間外	2	災　害	0
その他	14				

9　性･年齢別回収結果

性・年齢		標本数	回収数	回収率	性・年齢		標本数	回収数	回収率	性・年齢		標本数	回収数	回収率
				%					%					%
男女計	18～19歳	68	38	55.9	男性	18～19歳	33	17	51.5	女性	18～19歳	35	21	60.0
	20～29歳	349	149	42.7		20～29歳	159	62	39.0		20～29歳	190	87	45.8
	30～39歳	347	188	54.2		30～39歳	181	91	50.3		30～39歳	166	97	58.4
	40～49歳	512	293	57.2		40～49歳	257	133	51.8		40～49歳	255	160	62.7
	50～59歳	459	278	60.6		50～59歳	238	136	57.1		50～59歳	221	142	64.3
	60～69歳	450	315	70.0		60～69歳	228	159	69.7		60～69歳	222	156	70.3
	70歳以上	815	506	62.1		70歳以上	366	255	69.7		70歳以上	449	251	55.9
計		3,000	1,767	58.9	計		1,462	853	58.3	計		1,538	914	59.4

調査結果の概要

1　アイヌという民族について

(1) アイヌに関する周知度

アイヌという民族がいることを知っているか聞いたところ、「知っている」と答えた者の割合が93.6%、「知らない」と答えた者の割合が6.2%となっている。

都市規模別に見ると、大きな差異は見られない。

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「知っている」と答えた者の割合は60歳代、70歳以上で高くなっている。

（図１、表１）

図１　アイヌに関する周知度

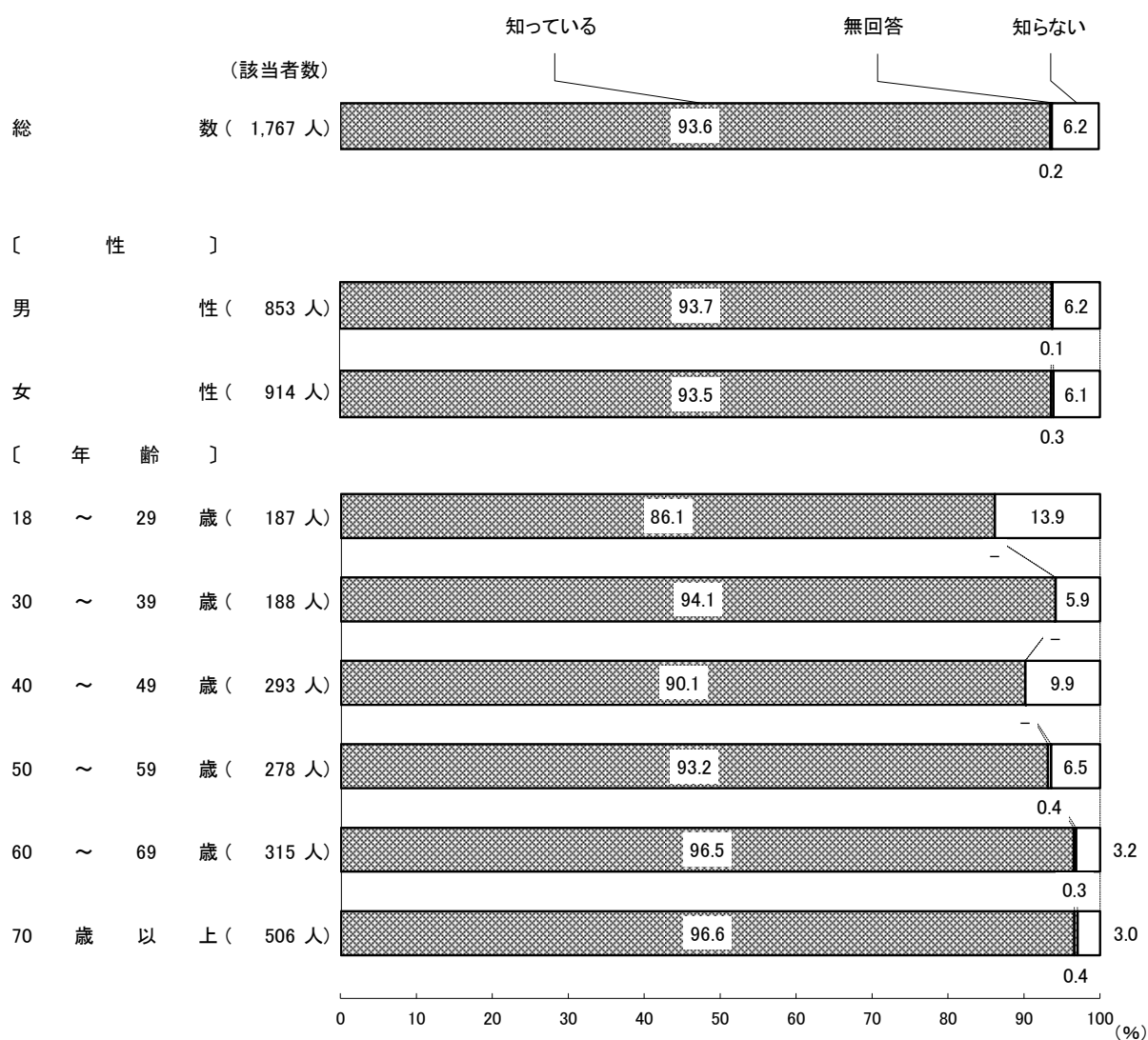



表１　アイヌに関する周知度

	該当者数	知っている	知らない	無回答
	人	%	%	%
総数	1,767	93.6	6.2	0.2
〔都市規模〕				
大都市	494	94.1	5.7	0.2
東京都区部	110	95.5	4.5	-
政令指定都市	384	93.8	6.0	0.3
中都市	719	94.6	5.4	-
小都市	399	92.0	7.3	0.8
町村	155	91.6	8.4	-
〔性〕				
男性	853	93.7	6.2	0.1
女性	914	93.5	6.1	0.3
〔年齢〕				
18 ～ 29 歳	187	86.1	13.9	-
30 ～ 39 歳	188	94.1	5.9	-
40 ～ 49 歳	293	90.1	9.9	-
50 ～ 59 歳	278	93.2	6.5	0.4
60 ～ 69 歳	315	96.5	3.2	0.3
70 歳以上	506	96.6	3.0	0.4

表１－参考　アイヌに関する周知度

	該当者数	知っている	知らない	わからない
	人	%	%	%
平成25年10月調査	1,745	95.3	3.8	0.9
平成30年７月調査	1,673	94.2	5.3	0.5
（うち20歳以上） 平成30年７月調査	1,710	94.2	5.3	0.5

（注）平成30年７月調査までは、調査員による個別面接聴取法で実施しているため、令和２年11月調査との単純比較は行わない。

ア　アイヌについて知っている事項（全般）

アイヌという民族がいることを「知っている」と答えた者（1,654 人）に、アイヌについてどのようなことを知っているか聞いたところ、「アイヌの人々が先住民族であるということ」を挙げた者の割合が 91.2％と最も高く、以下、「アイヌの人々が独自の伝統的文化を形成してきたこと」（83.2％）、「個人や団体としてアイヌ語や伝統文化の保持、継承、新しい文化の創造などに取り組んでいるアイヌの人々がいること」（46.5％）、「明治時代以降、多くのアイヌの人々が非常に貧しく独自の文化を制限された生活を余儀なくされたこと」（46.3％）、「中世以降、和人（アイヌの人々以外の日本人）との間に交流や争いなどがあったこと」（44.1％）などの順となっている。（複数回答、上位５項目）

都市規模別に見ると、「アイヌの人々が独自の伝統的文化を形成してきたこと」、「中世以降、和人（アイヌの人々以外の日本人）との間に交流や争いなどがあったこと」を挙げた者の割合は大都市で高くなっている。

性別に見ると、「明治時代以降、多くのアイヌの人々が非常に貧しく独自の文化を制限された生活を余儀なくされたこと」、「中世以降、和人（アイヌの人々以外の日本人）との間に交流や争いなどがあったこと」を挙げた者の割合は男性で高くなっている。

年齢別に見ると、「アイヌの人々が先住民族であるということ」を挙げた者の割合は 40 歳代で、「アイヌの人々が独自の伝統的文化を形成してきたこと」を挙げた者の割合は 60 歳代で、「個人や団体としてアイヌ語や伝統文化の保持、継承、新しい文化の創造などに取り組んでいるアイヌの人々がいること」、「明治時代以降、多くのアイヌの人々が非常に貧しく独自の文化を制限された生活を余儀なくされたこと」を挙げた者の割合は 60 歳代、70 歳以上で、それぞれ高くなっている。　（図２、表２）

図２　アイヌについて知っている事項（全般）

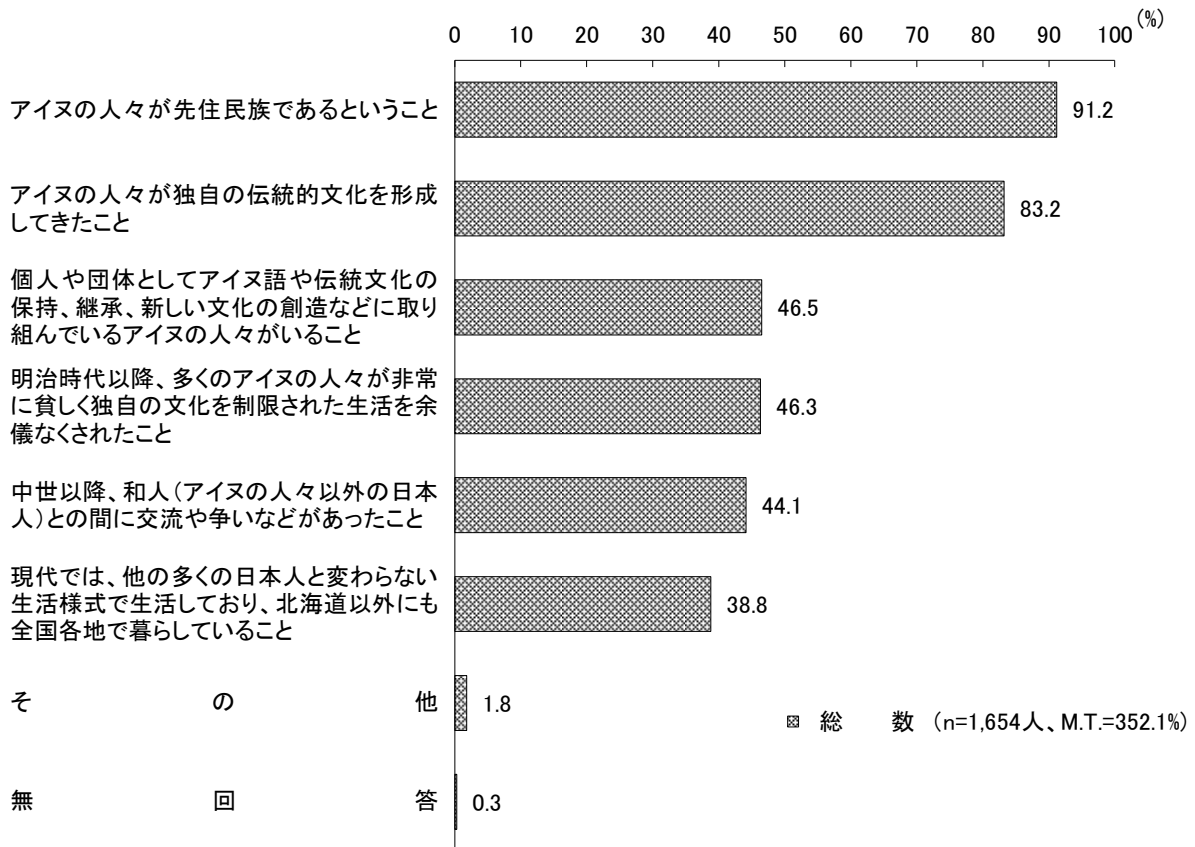



表２　アイヌについて知っている事項（全般）

（アイヌという民族がいることを「知っている」と答えた者に、複数回答）

	該当者数	アイヌの人々が先住民族であるということ	アイヌの人々が独自の伝統的文化を形成してきたこと	個人や団体としてアイヌ語や伝統文化の保持、継承、新しい文化の創造などに取り組んでいるアイヌの人々がいること	明治時代以降、多くのアイヌの人々が非常に貧しく独自の文化を制限された生活を余儀なくされたこと	中世以降、和人（アイヌの人々以外の日本人）との間に交流や争いなどがあったこと	現代では、他の多くの日本人と変わらない生活様式で生活しており、北海道以外にも全国各地で暮らしていること	その他	無回答	計（M.T.）
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,654	91.2	83.2	46.5	46.3	44.1	38.8	1.8	0.3	352.1
〔都市規模〕										
大都市	465	90.5	86.5	48.0	49.2	48.8	42.6	2.6	0.2	368.4
東京都区部	105	86.7	90.5	46.7	41.0	41.9	46.7	1.0	-	354.3
政令指定都市	360	91.7	85.3	48.3	51.7	50.8	41.4	3.1	0.3	372.5
中都市	680	91.9	84.7	47.6	46.9	44.9	37.5	1.6	0.4	355.6
小都市	367	89.9	76.6	42.8	41.1	36.2	36.5	1.6	-	324.8
町村	142	93.0	82.4	45.8	46.5	45.1	38.0	0.7	0.7	352.1
〔性〕										
男性	799	91.1	84.6	47.7	49.4	47.3	40.6	1.8	0.1	362.6
女性	855	91.2	81.9	45.4	43.3	41.1	37.1	1.9	0.5	342.2
〔年齢〕										
18～29歳	161	93.2	81.4	35.4	41.0	50.9	28.6	0.6	-	331.1
30～39歳	177	89.3	78.5	36.7	34.5	44.1	31.6	2.3	-	316.9
40～49歳	264	95.1	79.5	42.8	42.0	45.1	35.2	1.9	0.4	342.0
50～59歳	259	93.8	83.8	44.8	42.1	43.6	40.2	2.3	-	350.6
60～69歳	304	91.1	89.1	53.9	53.0	48.7	41.8	1.3	0.3	379.3
70歳以上	489	87.7	83.4	51.9	52.6	38.7	44.0	2.0	0.6	360.9

表２－参考１　アイヌについて知っている事項（全般）

（アイヌという民族がいることを「知っている」と答えた者に、複数回答）

	該当者数	アイヌの人々が先住民族であるということ	アイヌの人々が独自の伝統的文化を形成してきたこと	明治時代以降、多くのアイヌの人々が非常に貧しく独自の文化を制限された生活を余儀なくされたこと	中世以降、和人（アイヌの人々以外の日本人）との間に交流や争いなどがあったこと	現代では、他の多くの日本人と変わらない生活様式で生活しており、北海道以外にも全国各地で暮らしていること	個人や団体としてアイヌ語や伝統文化の保持、継承、新しい文化の創造などに取り組んでいるアイヌの人々がいること	その他	特にない	わからない	計（M.T.）
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成30年7月調査	1,611	77.3	65.7	40.0	35.6	34.3	34.1	0.9	4.3	2.3	294.6

（注）平成30年７月調査は、調査員による個別面接聴取法で実施しているため、令和２年11月調査との単純比較は行わない。

表２－参考２　アイヌについて知っている事項（全般）

（アイヌという民族がいることを「知っている」と答えた者に、複数回答）

	該当者数	アイヌの人々が先住民族であるということ	アイヌが独自の伝統的文化を形成していること	アイヌの人々が北海道や首都圏など全国各地で暮らしていること	中世・近世において和人と抗争した、近代の北海道開拓の過程で困窮化したなどの歴史があること	先住民族の権利に関する国際連合宣言が採択されたこと	その他	特にない	わからない	計 (M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成25年10月調査	1,663	68.3	65.7	48.0	38.1	10.8	1.4	4.0	2.6	238.8

イ　アイヌについて知っている事項（文化）

アイヌという民族がいることを「知っている」と答えた者（1,654 人）に、アイヌ文化についてどのようなことを知っているか聞いたところ、「衣服や服飾品を彩る独特なアイヌ文様があること」を挙げた者の割合が 83.1%、「アイヌ語という独自の言語があること」を挙げた者の割合が 81.3%と高く、以下、「盆や衣服などアイヌ独自の伝統的な工芸品があること」(49.8%)、「豊かな表現で語り伝えてきた口承文芸・民話があること」（47.6%）、「伝統的な古式舞踊があること」（45.9%）、「アイヌ独自の信仰・儀式があること」（44.0%）、「アイヌ独自の民族楽器があること」（41.1%）などの順となっている。（複数回答、上位７項目）

都市規模別に見ると、「伝統的な古式舞踊があること」を挙げた者の割合は大都市で高くなっている。

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「衣服や服飾品を彩る独特なアイヌ文様があること」、「盆や衣服などアイヌ独自の伝統的な工芸品があること」、「豊かな表現で語り伝えてきた口承文芸・民話があること」、「伝統的な古式舞踊があること」、「アイヌ独自の民族楽器があること」を挙げた者の割合は 60 歳代、70 歳以上で、「アイヌ独自の信仰・儀式があること」を挙げた者の割合は 70 歳以上で、それぞれ高くなっている。（図３、表３）

図３　アイヌについて知っている事項（文化）

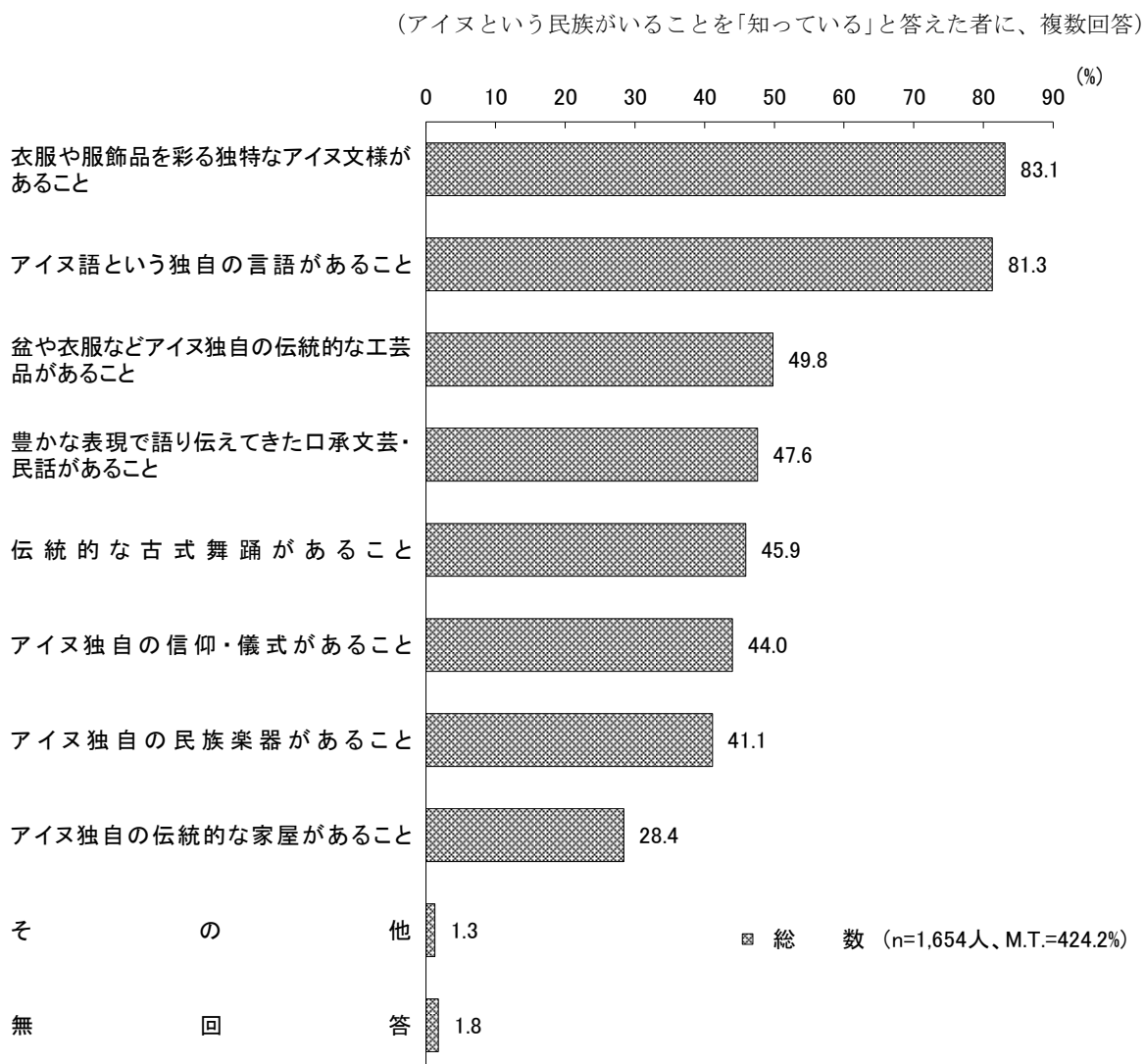



表３　アイヌについて知っている事項（文化）

（アイヌという民族がいることを「知っている」と答えた者に、複数回答）

	該当者数	衣服や服飾品を彩る独特なアイヌ文様があること	アイヌ語という独自の言語があること	盆や衣服などアイヌ独自の伝統的な工芸品があること	豊かな表現で語り伝えてきた口承文芸・民話があること	伝統的な古式舞踊があること	アイヌ独自の信仰・儀式があること	アイヌ独自の民族楽器があること	アイヌ独自の伝統的な家屋があること	その他	無回答	計(M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,654	83.1	81.3	49.8	47.6	45.9	44.0	41.1	28.4	1.3	1.8	424.2
〔都市規模〕												
大都市	465	83.0	82.6	53.1	48.4	50.3	46.0	41.9	30.5	1.9	1.9	439.8
東京都区部	105	78.1	78.1	44.8	42.9	40.0	44.8	33.3	34.3	1.9	1.9	400.0
政令指定都市	360	84.4	83.9	55.6	50.0	53.3	46.4	44.4	29.4	1.9	1.9	451.4
中都市	680	82.8	82.6	50.4	49.9	45.3	45.3	41.8	28.2	1.3	1.6	429.3
小都市	367	83.9	77.7	47.1	43.3	41.7	41.1	39.2	27.2	0.8	1.9	404.1
町村	142	83.1	80.3	43.0	45.1	45.1	38.0	39.4	24.6	0.7	2.1	401.4
〔性〕												
男性	799	83.6	81.4	51.8	48.6	46.9	46.3	41.1	29.2	1.1	2.0	431.9
女性	855	82.7	81.3	48.0	46.7	44.9	41.8	41.1	27.6	1.5	1.6	417.1
〔年齢〕												
18～29歳	161	72.0	82.6	32.9	36.6	23.0	37.9	29.2	29.2	1.2	1.2	346.0
30～39歳	177	70.6	81.4	35.6	35.0	25.4	37.9	26.6	24.3	2.3	2.3	341.2
40～49歳	264	77.7	82.2	42.4	42.8	33.7	43.2	33.0	27.3	2.7	1.5	386.4
50～59歳	259	81.1	83.8	50.2	50.2	40.2	36.3	32.4	29.0	0.4	1.9	405.4
60～69歳	304	91.4	80.3	58.9	53.9	60.2	47.4	54.9	28.6	0.3	1.0	477.0
70歳以上	489	90.2	79.8	58.7	53.0	61.6	50.5	50.5	29.7	1.4	2.5	477.7

表３－参考１　アイヌについて知っている事項（文化）

（アイヌという民族がいることを「知っている」と答えた者に、複数回答）

	該当者数	衣服や服飾品を彩る独特なアイヌ文様があること	アイヌ語という独自の言語があること	盆や衣服などアイヌ独自の伝統的な工芸品があること	伝統的な古式舞踊があること	豊かな表現で語り伝えてきた口承文芸・民話があること	アイヌ独自の民族楽器があること	アイヌ独自の信仰・儀式があること	アイヌ独自の伝統的な家屋があること	その他	特にない	わからない	計(M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成30年７月調査	1,611	65.3	64.6	39.0	37.9	37.1	34.9	32.7	25.0	0.2	8.4	3.8	349.0

（注）平成30年７月調査は、調査員による個別面接聴取法で実施しているため、令和２年11月調査との単純比較は行わない。

表３－参考２　アイヌについて知っている事項（文化）

（アイヌという民族がいることを「知っている」と答えた者に、複数回答）

	該当者数	衣服や服飾品を彩る独特なアイヌ文様があること	アイヌ語という独自の言語を用いていること	盆や衣服などアイヌ独自の伝統的な工芸品があること	伝統的な古式舞踊があること	口伝えによる豊かな表現で、語り伝えてきた口承文芸・民話があること	アイヌ独自の民族楽器があること	アイヌ独自の信仰・儀式があること	アイヌ独自の伝統的な家屋があること	その他	特にない	わからない	計(M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成25年10月調査	1,663	71.4	56.6	46.1	45.0	41.9	41.6	36.6	28.8	0.3	7.1	4.1	379.3

(2) アイヌを知っていただくために重点的に行うべき取組

アイヌという民族について国民に知ってもらうために、どのような取組を重点的に行うべきか聞いたところ、「テレビ番組や新聞を利用した情報発信」を挙げた者の割合が 78.8%と最も高く、以下、「アイヌの伝統的食事・衣服・楽器などの体験機会の提供」（41.3%）、「インターネットによる広報活動」（35.7%）などの順となっている。（複数回答、上位３項目）

性別に見ると、「テレビ番組や新聞を利用した情報発信」、「アイヌの伝統的食事・衣服・楽器などの体験機会の提供」を挙げた者の割合は女性で高くなっている。

年齢別に見ると、「テレビ番組や新聞を利用した情報発信」を挙げた者の割合は 70 歳以上で、「アイヌの伝統的食事・衣服・楽器などの体験機会の提供」を挙げた者の割合は 30 歳代、40 歳代で、「インターネットによる広報活動」を挙げた者の割合は 18～29 歳、30 歳代で、それぞれ高くなっている。（図４、表４）

図４　アイヌを知っていただくために重点的に行うべき取組

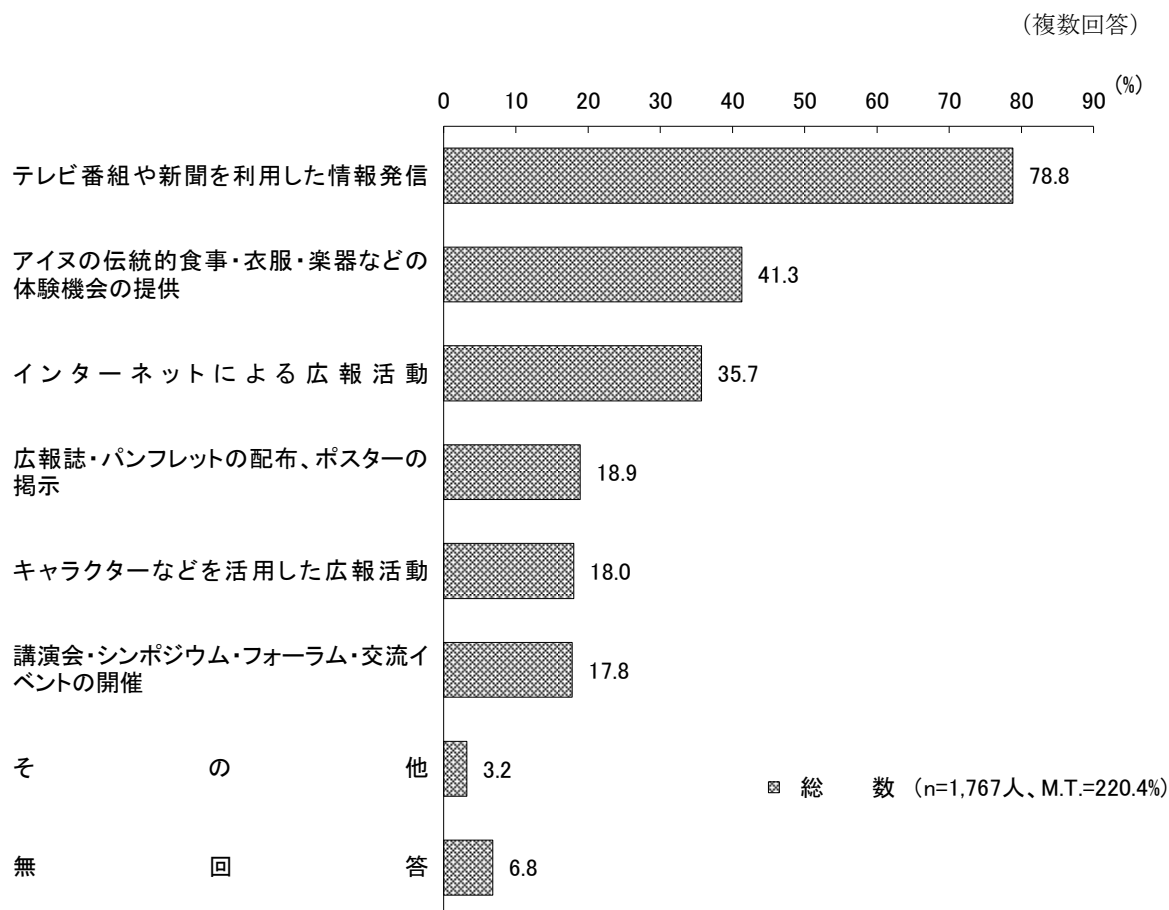



表４　アイヌを知っていただくために重点的に行うべき取組

（複数回答）

	該当者数	テレビ番組や新聞を利用した情報発信	アイヌの伝統的食事・衣服・楽器などの体験機会の提供	インターネットによる広報活動	広報誌・パンフレットの配布、ポスターの掲示	キャラクターなどを活用した広報活動	講演会・シンポジウム・フォーラム・交流イベントの開催	その他	無回答	計(M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,767	78.8	41.3	35.7	18.9	18.0	17.8	3.2	6.8	220.4
〔都市規模〕										
大都市	494	77.5	41.5	39.3	18.6	23.3	16.8	4.7	5.5	227.1
東京都区部	110	77.3	35.5	39.1	15.5	26.4	13.6	5.5	3.6	216.4
政令指定都市	384	77.6	43.2	39.3	19.5	22.4	17.7	4.4	6.0	230.2
中都市	719	80.7	41.4	36.7	19.6	17.7	18.8	3.1	5.6	223.5
小都市	399	76.9	41.6	31.6	17.3	13.3	16.0	2.5	9.0	208.3
町村	155	78.7	38.7	30.3	20.6	14.8	20.6	1.3	11.0	216.1
〔性〕										
男性	853	75.5	38.8	37.9	20.6	18.5	18.9	3.2	7.3	220.6
女性	914	81.8	43.5	33.7	17.3	17.5	16.7	3.3	6.3	220.2
〔年齢〕										
18～29歳	187	68.4	31.0	47.6	11.8	31.6	9.6	4.3	4.3	208.6
30～39歳	188	75.5	48.9	46.8	12.2	28.7	11.7	3.7	3.2	230.9
40～49歳	293	75.4	46.4	39.9	16.4	17.4	13.3	4.8	5.1	218.8
50～59歳	278	79.5	39.6	39.9	19.4	17.6	14.0	2.5	6.8	219.4
60～69歳	315	79.7	46.0	35.6	20.0	15.2	22.9	2.9	7.9	230.2
70歳以上	506	84.8	37.2	22.5	24.5	11.3	24.5	2.4	9.3	216.4

表４－参考１　アイヌを知っていただくために重点的に行うべき取組

（複数回答）

	該当者数	テレビ番組や新聞を利用した情報発信	アイヌの伝統的食事・衣服・楽器などの体験機会の提供	インターネットによる広報活動	講演会・シンポジウム・フォーラム・交流イベントの開催	広報誌・パンフレットの配布、ポスターの掲示	キャラクターなどを活用した広報活動	その他	特にない	わからない	計(M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成30年7月調査	1,710	67.2	35.3	34.8	24.4	17.2	15.6	0.8	5.1	4.9	205.4

（注）平成30年７月調査は、調査員による個別面接聴取法で実施しているため、令和２年11月調査との単純比較は行わない。

表４－参考２　国民理解の促進に向けて効果的な取組方法

（複数回答）

	該当者数	テレビ番組や新聞を利用した情報提供	再現されたアイヌの伝統的家屋・食事・衣服・楽器の体験	インターネットによる広報活動	講演会・シンポジウム・フォーラム・文化交流イベントの開催	広報紙・パンフレットの配布、ポスターの掲示	キャラクターやロゴマークを活用した親しみやすさを感じる広報活動	その他	特にない	わからない	計(M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成25年10月調査	1,745	72.8	35.5	39.0	30.3	25.0	23.6	1.3	3.3	4.4	235.2
平成28年1月調査	1,727	67.8	29.0	27.5	22.7	15.6	14.6	1.3	7.9	4.1	190.4

（注）「あなたは、広く国民が、アイヌに関して、関心を深めるためには、どのような方法による取組が効果的だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。」と聞いている。

２　「民族共生象徴空間」（愛称：ウポポイ）について

(1)「ウポポイ」の周知度

ウポポイについて知っていたか聞いたところ、「知っていた」とする者の割合が 35.5%（「知っていた」16.2%＋「言葉だけは聞いたことがある」19.3%）、「知らなかった」と答えた者の割合が 63.4%となっている。

都市規模別に見ると、大きな差異は見られない。

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「知っていた」とする者の割合は 60 歳代で、「知らなかった」と答えた者の割合は 18～29 歳、30 歳代で、それぞれ高くなっている。　　　　　　　（図５、表５）

図５　「ウポポイ」の周知度

知っていた（小計）35.5 = 知っていた + 言葉だけは聞いたことがある

	（該当者数）	知っていた	言葉だけは聞いたことがある	無回答	知らなかった
総数	1,767 人	16.2	19.3	1.1	63.4
〔性〕					
男性	853 人	14.5	20.6	1.2	63.7
女性	914 人	17.7	18.1	1.1	63.1
〔年齢〕					
18 ～ 29 歳	187 人	10.7	15.0	0.5	73.8
30 ～ 39 歳	188 人	13.3	14.9	0.5	71.3
40 ～ 49 歳	293 人	17.4	16.4	0.3	65.9
50 ～ 59 歳	278 人	16.9	20.9	1.4	60.8
60 ～ 69 歳	315 人	22.2	22.5	0.6	54.6
70 歳以上	506 人	14.4	21.3	2.2	62.1

（%）

表５　「ウポポイ」の周知度

	該当者数	知っていた（小計）	知っていた	言葉だけは聞いたことがある	知らなかった	無回答
	人	%	%	%	%	%
総数	1,767	35.5	16.2	19.3	63.4	1.1
〔都市規模〕						
大都市	494	37.7	18.2	19.4	60.7	1.6
東京都区部	110	38.2	19.1	19.1	61.8	-
政令指定都市	384	37.5	18.0	19.5	60.4	2.1
中都市	719	34.5	15.9	18.6	65.0	0.6
小都市	399	34.1	13.0	21.1	64.4	1.5
町村	155	36.8	19.4	17.4	61.9	1.3
〔性〕						
男性	853	35.2	14.5	20.6	63.7	1.2
女性	914	35.8	17.7	18.1	63.1	1.1
〔年齢〕						
18 ～ 29 歳	187	25.7	10.7	15.0	73.8	0.5
30 ～ 39 歳	188	28.2	13.3	14.9	71.3	0.5
40 ～ 49 歳	293	33.8	17.4	16.4	65.9	0.3
50 ～ 59 歳	278	37.8	16.9	20.9	60.8	1.4
60 ～ 69 歳	315	44.8	22.2	22.5	54.6	0.6
70 歳以上	506	35.8	14.4	21.3	62.1	2.2

表５－参考１　「民族共生象徴空間」の周知度

	該当者数	知っていた（小計）	知っていた	言葉だけは聞いたことがある	知らなかった	わからない
	人	%	%	%	%	%
平成30年７月調査	1,710	9.2	4.6	4.7	89.6	1.1

（注１）「あなたは、「民族共生象徴空間」について知っていましたか。それとも知りませんでしたか。この中から１つだけお答えください。」と聞いている。
（注２）平成30年７月調査は、調査員による個別面接聴取法で実施しているため、令和２年11月調査との単純比較は行わない。

表５－参考２　「民族共生の象徴となる空間」の周知度

	該当者数	知っていた（小計）	知っていた	言葉だけは聞いたことがある	知らなかった	わからない
	人	%	%	%	%	%
平成25年10月調査	1,745	12.6	5.4	7.1	85.5	1.9

（注）「あなたは、この国が取り組んでいる「民族共生の象徴となる空間」について知っていましたか。この中から１つだけお答えください。」と聞いている。

(2)「ウポポイ」への訪問意欲

ウポポイに行ってみたいと思うか聞いたところ、「行ってみたい」とする者の割合が 62.1%（「ぜひ行ってみたい」9.6%＋「機会があれば行ってみたい」52.5%）、「行ってみたいと思わない」とする者の割合が 21.3%（「どのような施設かわからないので行ってみたいとは思わない」10.3%＋「施設の内容に興味がないので行ってみたいとは思わない」11.0%）となっている。なお、「わからない」と答えた者の割合が 14.7%となっている。

都市規模別に見ると、「行ってみたい」とする者の割合は中都市で高くなっている。

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「行ってみたい」とする者の割合は 60 歳代で、「行ってみたいと思わない」とする者の割合は 30 歳代で、それぞれ高くなっている。（図６、表６）

図６　「ウポポイ」への訪問意欲

	（該当者数）	行ってみたい（小計）62.1		わからない	無回答	行ってみたいと思わない（小計）21.3	
		ぜひ行ってみたい	機会があれば行ってみたい			どのような施設かわからないので行ってみたいとは思わない	施設の内容に興味がないので行ってみたいとは思わない
総数	1,767 人	9.6	52.5	14.7	2.0	10.3	11.0
〔性〕							
男性	853 人	10.0	51.6	13.6	1.9	11.3	11.7
女性	914 人	9.3	53.3	15.6	2.1	9.4	10.3
〔年齢〕							
18～29 歳	187 人	11.2	50.8	12.3	0.5	17.1	8.0
30～39 歳	188 人	9.0	42.6	9.6	1.1	18.6	19.1
40～49 歳	293 人	9.9	50.9	14.0	0.3	8.5	16.4
50～59 歳	278 人	10.8	54.0	10.4	2.2	10.8	11.9
60～69 歳	315 人	8.6	61.0	15.9	1.0	7.3	6.3
70 歳以上	506 人	9.1	51.6	19.4	4.3	7.3	8.3

(%)

表６　「ウポポイ」への訪問意欲

	該当者数	行ってみたい（小計）	ぜひ行ってみたい	機会があれば行ってみたい	行ってみたいと思わない（小計）	どのような施設かわからないので行ってみたいとは思わない	施設の内容に興味がないので行ってみたいとは思わない	わからない	無回答
	人	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,767	62.1	9.6	52.5	21.3	10.3	11.0	14.7	2.0
〔都市規模〕									
大都市	494	60.5	9.5	51.0	22.9	9.9	13.0	14.8	1.8
東京都区部	110	56.4	5.5	50.9	28.2	8.2	20.0	12.7	2.7
政令指定都市	384	61.7	10.7	51.0	21.4	10.4	10.9	15.4	1.6
中都市	719	65.8	9.3	56.5	19.1	9.7	9.3	14.0	1.1
小都市	399	58.4	10.5	47.9	22.3	12.5	9.8	16.0	3.3
町村	155	59.4	9.0	50.3	23.9	8.4	15.5	13.5	3.2
〔性〕									
男性	853	61.5	10.0	51.6	23.0	11.3	11.7	13.6	1.9
女性	914	62.6	9.3	53.3	19.7	9.4	10.3	15.6	2.1
〔年齢〕									
18～29歳	187	62.0	11.2	50.8	25.1	17.1	8.0	12.3	0.5
30～39歳	188	51.6	9.0	42.6	37.8	18.6	19.1	9.6	1.1
40～49歳	293	60.8	9.9	50.9	24.9	8.5	16.4	14.0	0.3
50～59歳	278	64.7	10.8	54.0	22.7	10.8	11.9	10.4	2.2
60～69歳	315	69.5	8.6	61.0	13.7	7.3	6.3	15.9	1.0
70歳以上	506	60.7	9.1	51.6	15.6	7.3	8.3	19.4	4.3

3　アイヌに関する施策について

(1) 重点的に行うべきアイヌ関連施策

アイヌに関する施策のうち、どのような取組を重点的に行うべきか聞いたところ、「アイヌの人々への理解を深めるための啓発・広報活動」を挙げた者の割合が 50.9%、「アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育」を挙げた者の割合が 47.9%と高く、以下、「ウポポイへの誘客促進のための広報活動」（33.5%）、「アイヌ文化継承のための人材育成」（27.2%）、「アイヌの人々への生活や教育の充実・支援」（27.1%）、「アイヌ文化復興のための地域活動などへの支援」（27.1%）などの順となっている。（複数回答、上位６項目）

都市規模別に見ると、「アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育」を挙げた者の割合は大都市で、「アイヌの人々への生活や教育の充実・支援」を挙げた者の割合は中都市で、それぞれ高くなっている。

性別に見ると、大きな差異は見られない。

年齢別に見ると、「アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育」を挙げた者の割合は 40 歳代で、「アイヌ文化継承のための人材育成」、「アイヌ文化復興のための地域活動などへの支援」を挙げた者の割合は 60 歳代で、「アイヌの人々への生活や教育の充実・支援」を挙げた者の割合は 70 歳以上で、それぞれ高くなっている。　（図７、表７）

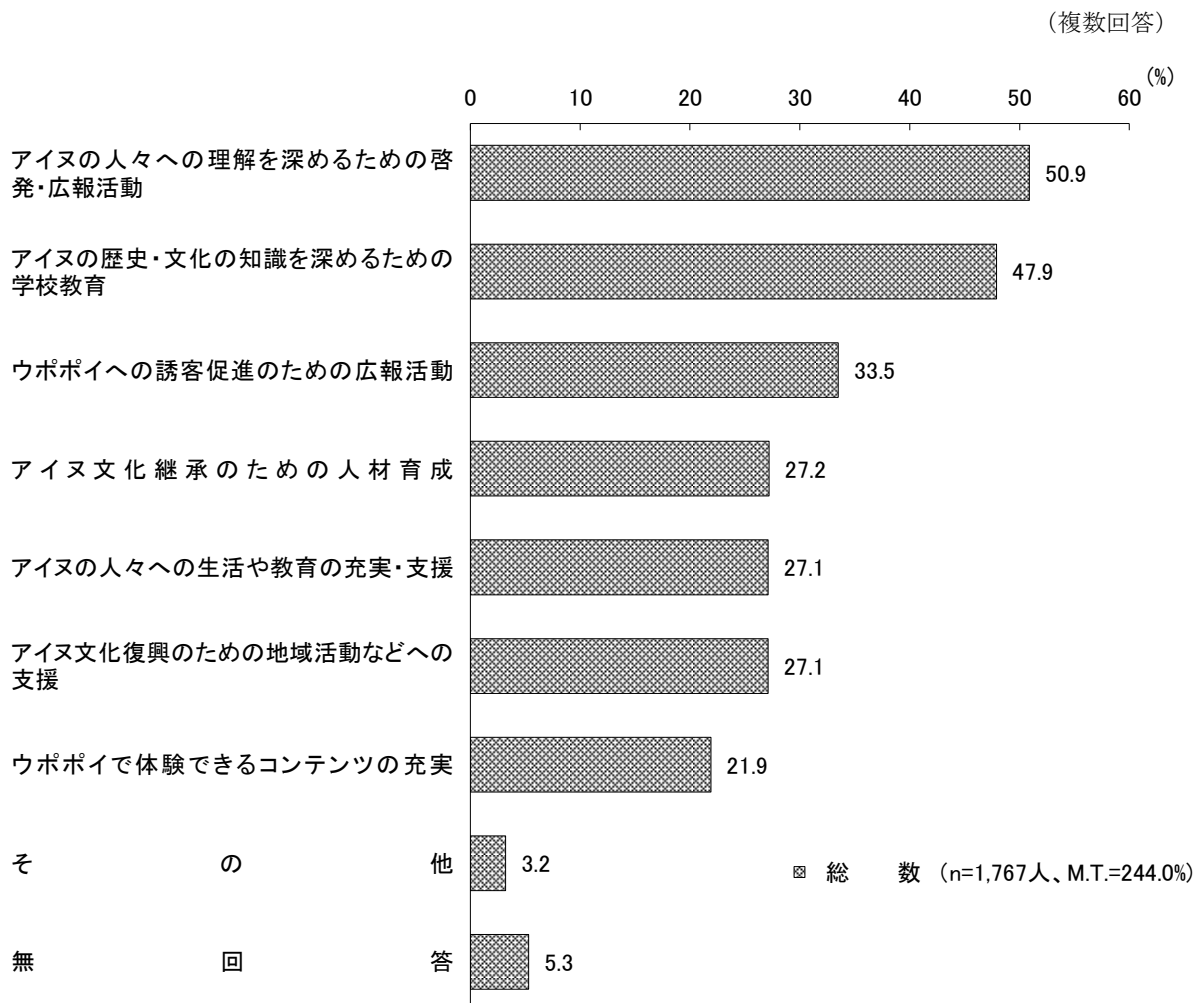
図７　重点的に行うべきアイヌ関連施策

（複数回答）

表７　重点的に行うべきアイヌ関連施策

（複数回答）

	該当者数	アイヌの人々への理解を深めるための啓発・広報活動	アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育	ウポポイへの誘客促進のための広報活動	アイヌ文化継承のための人材育成	アイヌの人々への生活や教育の充実・支援	アイヌ文化復興のための地域活動などへの支援	ウポポイで体験できるコンテンツの充実	その他	無回答	計(M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	1,767	50.9	47.9	33.5	27.2	27.1	27.1	21.9	3.2	5.3	244.0
〔都市規模〕											
大都市	494	48.8	53.0	33.4	27.7	24.3	28.1	22.7	4.3	4.7	247.0
東京都区部	110	41.8	44.5	31.8	26.4	21.8	24.5	20.0	6.4	3.6	220.9
政令指定都市	384	50.8	55.5	33.9	28.1	25.0	29.2	23.4	3.6	4.9	254.4
中都市	719	52.9	49.8	34.4	27.1	30.3	26.3	23.2	2.6	3.9	250.5
小都市	399	47.6	39.8	32.8	25.6	25.1	26.3	18.0	3.5	7.5	226.3
町村	155	56.8	43.9	31.6	30.3	26.5	29.0	23.2	1.3	7.7	250.3
〔性〕											
男性	853	52.8	47.8	32.7	28.1	26.5	26.3	20.4	3.0	3.9	241.5
女性	914	49.1	48.0	34.2	26.4	27.7	27.8	23.3	3.3	6.6	246.4
〔年齢〕											
18～29歳	187	39.0	54.0	35.8	20.3	20.9	15.5	33.2	1.6	2.7	223.0
30～39歳	188	46.8	52.7	34.0	18.1	20.2	20.7	27.1	3.7	2.1	225.5
40～49歳	293	51.2	54.6	30.4	26.3	24.2	24.9	23.9	5.1	2.4	243.0
50～59歳	278	54.0	48.6	34.9	27.3	20.9	28.1	21.9	2.9	4.7	243.2
60～69歳	315	52.1	43.2	36.5	35.9	31.1	35.2	20.0	2.5	3.5	260.0
70歳以上	506	54.2	42.7	31.6	28.3	34.6	29.2	15.8	3.0	10.5	249.8

表７－参考１　重点的に行うべきアイヌ関連施策

（複数回答）

	該当者数	アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育	アイヌの人々への理解を深めるための啓発・広報活動	アイヌ文化継承のための人材育成	アイヌ文化復興のための地域活動などへの支援	アイヌの人々への教育の充実・支援	アイヌの人々への職業訓練の充実や雇用の確保などの生活支援	大学などの研究機関におけるアイヌに関する研究の推進	その他	特にない	わからない	計(M.T.)
	人	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
平成30年７月調査	1,710	45.4	42.5	30.2	26.3	18.2	17.8	15.0	0.9	9.4	9.0	214.9

（注１）「あなたは、アイヌの人々に関する施策のうち、どのような取組を重点的に行うべきだと思いますか。この中からいくつでもあげてください。」と聞いている。

（注２）平成30年７月調査は、調査員による個別面接聴取法で実施しているため、令和２年11月調査との単純比較は行わない。

表７－参考２　重要だと思うアイヌ関連施策

（複数回答）

	該当者数	アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育	アイヌの人々への理解を深めるための啓発・広報活動	アイヌ文化継承のための人材育成	アイヌ文化の更なる振興	アイヌの人々への教育の充実・支援	アイヌの人々への職業訓練の充実や雇用の確保などの生活支援	その他	特にない	わからない	計（M.T.）
	人	％	％	％	％	％	％	％	％	％	％
平成25年10月調査	1,745	51.3	43.4	31.1	27.1	25.4	21.5	1.1	7.2	9.3	217.5

アイヌ政策に関する世論調査

令和２年 11 月

調　査　時　期：令和２年 11 月５日から令和２年 12 月 20 日
調　査　対　象：全国 18 歳以上の日本国籍を有する者 3,000 人
有効回収数(率)：1,767 人（58.9％）

ここからは、アイヌ政策についておうかがいします

問１．あなたは、アイヌという民族がいることを知っていますか。それとも知りませんか。（○は１つ）

（93.6）**１．**知っている
（ 6.2）**２．**知らない
（ 0.2）　無回答

２と答えた方、無回答は問４へ

問１で「１．知っている」と答えた方への質問

問２．あなたは、アイヌについてどのようなことを知っていますか。（○はいくつでも）
（n=1,654）

（91.2）**１．**アイヌの人々が先住民族であるということ
（83.2）**２．**アイヌの人々が独自の伝統的文化を形成してきたこと
（44.1）**３．**中世以降、和人（アイヌの人々以外の日本人）との間に交流や争いなどがあったこと
（46.3）**４．**明治時代以降、多くのアイヌの人々が非常に貧しく独自の文化を制限された生活を余儀なくされたこと
（38.8）**５．**現代では、他の多くの日本人と変わらない生活様式で生活しており、北海道以外にも全国各地で暮らしていること
（46.5）**６．**個人や団体としてアイヌ語や伝統文化の保持、継承、新しい文化の創造などに取り組んでいるアイヌの人々がいること
（ 1.8）**７．**その他（具体的に→）＿＿＿＿＿＿
（ 0.3）　無回答　（M.T.=352.1）

右の段の 問３ に進んでください

問１で「１．知っている」と答えた方への質問

問３．あなたは、アイヌ文化についてどのようなことを知っていますか。（○はいくつでも）
（n=1,654）

（81.3）**１．**アイヌ語という独自の言語があること
（47.6）**２．**豊かな表現で語り伝えてきた口承文芸・民話があること
（83.1）**３．**衣服や服飾品を彩る独特なアイヌ文様があること
（45.9）**４．**伝統的な古式舞踊があること
（41.1）**５．**アイヌ独自の民族楽器があること
（49.8）**６．**盆や衣服などアイヌ独自の伝統的な工芸品があること
（44.0）**７．**アイヌ独自の信仰・儀式があること
（28.4）**８．**アイヌ独自の伝統的な家屋があること
（ 1.3）**９．**その他（具体的に→）＿＿＿＿＿＿
（ 1.8）　無回答　（M.T.=424.2）

ここからは全員の方がお答えください

問４．あなたは、アイヌという民族について国民の皆様に知っていただくために、どのような取組を重点的に行うべきだと思いますか。（○はいくつでも）

（78.8）**１．**テレビ番組や新聞を利用した情報発信
（18.9）**２．**広報誌・パンフレットの配布、ポスターの掲示
（35.7）**３．**インターネットによる広報活動
（17.8）**４．**講演会・シンポジウム・フォーラム・交流イベントの開催
（41.3）**５．**アイヌの伝統的食事・衣服・楽器などの体験機会の提供
（18.0）**６．**キャラクターなどを活用した広報活動
（ 3.2）**７．**その他（具体的に→）＿＿＿＿＿＿
（ 6.8）　無回答　（M.T.=220.4）

次のページの【資料】に進んでください

全員の方が【資料】を読んでから下の 問５以降をお答えください

【資料】

「民族共生象徴空間」（愛称：ウポポイ）について

「民族共生象徴空間」（以下「ウポポイ」といいます。）は、北海道白老町（しらおいちょう）において、2020 年７月 12 日から一般公開しているアイヌ文化復興・創造の拠点です。

先住民族アイヌの歴史と文化を主題とした日本初・日本最北の国立アイヌ民族博物館や、伝統芸能上演・工芸などを体験できるプログラムなど、アイヌの世界観や自然観を体感できる施設となっています。

問５．あなたは、ウポポイについて知っていましたか。それとも知りませんでしたか。（○は１つ）

(16.2) **１**．知っていた
(19.3) **２**．言葉だけは聞いたことがある
(63.4) **３**．知らなかった
(1.1) 無回答

問６．あなたは、ウポポイに行ってみたいと思いますか。それとも行ってみたいとは思いませんか。（○は１つ）

(9.6) **１**．ぜひ行ってみたい
(52.5) **２**．機会があれば行ってみたい
(10.3) **３**．どのような施設かわからないので行ってみたいとは思わない
(11.0) **４**．施設の内容に興味がないので行ってみたいとは思わない
(14.7) **５**．わからない
(2.0) 無回答

問７．あなたは、アイヌに関する施策のうち、どのような取組を重点的に行うべきだと思いますか。
（○はいくつでも）

(33.5) **１**．ウポポイへの誘客促進のための広報活動
(21.9) **２**．ウポポイで体験できるコンテンツの充実
(50.9) **３**．アイヌの人々への理解を深めるための啓発・広報活動
(47.9) **４**．アイヌの歴史・文化の知識を深めるための学校教育
(27.1) **５**．アイヌの人々への生活や教育の充実・支援
(27.2) **６**．アイヌ文化継承のための人材育成
(27.1) **７**．アイヌ文化復興のための地域活動などへの支援
(3.2) **８**．その他（具体的に→）＿＿＿＿＿＿
(5.3) 無回答 (M.T.=244.0)